

---

朝比奈大作 監修  
司書教諭テキストシリーズⅡ…3

---

# 学習指導と学校図書館

[編集] 齋藤 泰則  
江 竜 珠 緒  
富永香羊子  
村 木 美 紀

樹 村 房

## 監修者の言葉

本シリーズは2002年から刊行されてきた「司書教諭テキストシリーズ」の改訂版に相当するものである。1998(平成10)年に学校図書館司書教諭講習規定の内容が大幅に改訂され、これを受ける形で旧版が編集・刊行されたのであるが、それからすでに十余年が経過し、学校図書館を取り巻く状況にも大きな変化が見られる。とりわけ、2008(平成20)年からのいわゆる新学習指導要領には「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」(傍点筆者)という文言が盛り込まれており、学校図書館と司書教諭との責任はより大きなものとなっている。

一方では、いわゆるスマートフォンの普及に見られるように、情報化の進展は止まるところを知らず、むしろさらにその進展の度を増しているように見える。ここではあえて「情報化」が何を意味しているのか、その定義についてはふれずにおくが、「情報」と「知識」とは大きく重なり合う概念であることは間違いない。そしてまた「知識の獲得」が私たちの教育・学習活動の主要な部分であることも言うまでもないことであろう。とするならば、私たちを取り巻く情報環境が大きく変化している以上、それに伴って私たちの教育・学習のあり方も大きな変革を余儀なくされるはずである。当然に学校教育そのものの在り方についても、より真摯な再点検が行われなければなるまい。上記の新学習指導要領の文言にもこのことは反映されていると言える。

こうした状況をふまえて、旧版を全面的に改訂しようということがこの「司書教諭テキストシリーズⅡ」の趣旨である。旧シリーズと同様に、最新の図書館情報学の知見を教育学的な視点から解説し、理論と実践との融合を図るという方針に変わりはないが、比較的若手の著者に執筆を依頼した。「古い革袋に新しい酒を入れる」ことが必要であろうと思われたからである。

残念ながら、一般的な学校教育の現場においては、「学校図書館の機能の活用を図る」ことについても、情報化の進展に伴う学校教育の変革の必要性についても、必ずしも十分な理解が得られているとは言えない。それなりの法整備

は進められてはいても、教育の現場における実践活動は旧態依然の状態に置かれたままであるようにも感じられる。このギャップを埋めるためには、図書館情報学の知識や技術を暗記的に身に付けていくことよりは、これらの知識・技術を教育現場の中でいかに活用すべきか、あるいは活用できるのか、ということについて、理念的に考えてみる必要があるであろう。本シリーズではそのことも強く意識した編集を心がけている。司書教諭資格取得のため勉強中の学生諸君ばかりでなく、すでに学校図書館で実務に携わっている方々、あるいはさらに司書教諭養成の立場にある方々にとっても、本シリーズが「理念的に考えてみる」ことのきっかけとなるよう願ってやまない。

2015年6月

監修者 朝比奈大作

## 序 文

本書は、学校図書館司書教諭講習規程に定められた司書教諭の資格を得るために履修が必要な科目である「学習指導と学校図書館」のテキストである。

本書では、学校図書館の活用に関して司書教諭が担う学習指導の意義、方法、ならびに、その内容について解説している。以下、本書を構成する各章の概要と章相互の関係について述べる。

本書は大きく三つの部分から構成されている。第一に、学習と図書館との関係について理論的に考察した部分である（第1章から第3章）。第二に、その理論的考察を受けて、児童生徒が習得すべき学校図書館の情報資源の活用に必要な知識とスキルを取り上げるとともに、そうした知識やスキルを習得するための情報リテラシー教育について解説した部分である（第4章から第9章）。第三に、学校図書館を活用した授業実践と学習事例について解説した部分である（第10章から第15章）。

司書教諭には、児童生徒の学習を支援するとともに、授業者である教師の教育活動を支援する役割が求められている。この役割を担う上であらかじめ理解しておくべき重要なことは、学習・教育活動における学校図書館の情報資源を活用する意義と必要性である。司書教諭には、自ら学校図書館の情報資源を活用した学習指導を行うとともに、授業者である教師に対して学校図書館の情報資源を活用した教育活動を展開する意義と方法について説明する役割が期待されている。

そこで、第1章から第3章の解説をとおして、司書教諭として、自ら学校図書館の情報資源を活用した学習指導を実践するための理論的基礎を習得していただきたい。さらに、授業者である教師に対して児童生徒の主体的な学習能力の育成にあたり学校図書館の情報資源を活用した教育活動が不可欠であることを説明し、そうした教育活動を先導する役割を発揮することができるための理論的知識を習得していただきたい。

学習における学校図書館の情報資源の活用に関する意義と必要性に関する理

論的理解を踏まえ、第4章から第9章の解説を通して、学校図書館を活用した学習指導を実践するうえで必要な知識とスキルの獲得を図っていただきたい。すなわち、主体的な学習能力や問題解決能力の主要な構成要素である学校図書館の情報資源の活用に関する知識とスキルの内容を把握するとともに、児童生徒がそうした知識とスキルを獲得するための情報リテラシー教育の方法について習得していただきたい。

第10章から第15章では、学校図書館を活用した授業や学習活動の事例を取り上げているが、同時に学校現場においてそうした学校図書館を活用した教育を導入するうえでどのような学習環境や情報環境の構成と整備が必要となるのかについても習得していただきたい。

本書では、学校教育現場の第一線で活躍されている指導主事の富永香羊子先生と司書教諭の江竜珠緒先生に執筆陣として加わっていただいている。学校現場で実際に展開されている学校図書館を活用した教育実践事例の学習をとおして、学校図書館を活用した授業や学習の設計について習得していただきたい。

最後に、監修者の朝比奈大作先生には原稿の内容と全体構成について重要なお指摘をいただき、改稿を重ねることにより本書を完成することができた。この場を借りてお礼申しあげたい。

2015年11月10日

編者 齋藤泰則

# 学習指導と学校図書館

## も く じ

監修者の言葉 iii

序文 v

### 第1章 学習と図書館 —————1

1. 図書館の社会的機能と学校教育 .....1
2. 学習と図書館の情報資源 .....4
  - (1) 学習と経験 4
  - (2) 永続的な変化をもたらす学習と知識 8
3. 学習活動における図書館の位置づけ .....11

### 第2章 『学習指導要領』にみる学校図書館 —————14

1. 問題解決的な学習と探究的な活動の意義 .....14
2. 『学習指導要領』における学校図書館の扱い .....20
  - (1) 問題解決的な学習の意義 20
  - (2) 問題解決的な学習における学校図書館の利用 22
3. 総合的な学習の時間と学校図書館 .....26

### 第3章 探究的な学習の理論と図書館の情報資源 —————27

1. 学び方の教育の必要性 .....27
2. 探究的な学習のモデル .....31
3. 探究的な学習指導の段階 .....34
4. 探究的な学習指導モデル .....37
5. 探究的な学習の領域 .....40

### 第4章 学習指導における問題の設定 —————42

1. 課された問題と自己生成問題 .....42

2. 自己生成問題の特徴 .....	43
3. 課された問題とその遷移 .....	47
4. 課された問題から自己生成問題への定式化 .....	53
(1) 自己生成問題への定式化における留意点	53
(2) 授業実践事例(1)	54
(3) 授業実践事例(2)	56
5. まとめ .....	58

## 第5章 情報リテラシーの内容と指導方法 .....59

1. 情報リテラシーの概要 .....	59
2. 情報リテラシーの領域 .....	63
(1) 印象づけ	65
(2) サービス案内	66
(3) 情報探索法指導	66
(4) 情報整理法指導	68
(5) 情報表現法指導	69
(6) 情報リテラシーの指導方法	71
3. 情報リテラシーと探究的な学習との関係 .....	73
4. まとめ .....	75

## 第6章 情報リテラシーと探究的な学習-1 .....76

1. 探究的な学習における図書館の情報資源の利用 .....	76
(1) 図書館の情報資源の生産過程	78
(2) 探究的な学習過程と図書館の情報資源の利用	80
2. 問題の設定 .....	81
(1) 自己生成問題	81
(2) 概念地図としての件名標目の活用	82
(3) 百科事典の利用	87
3. まとめ .....	89

## 第7章 情報リテラシーと探究的な学習-2 —————91

1. 問題の焦点化と件名標目の利用 .....91
2. 情報の探索と収集 .....94
  - (1) 書架探索 95
  - (2) 書誌・索引・目録の利用 96
  - (3) 目録の利用と原文献の入手 102
3. インターネット情報源の選択と評価 .....105
4. まとめ .....108

## 第8章 情報リテラシーと探究的な学習-3 —————109

1. 情報探索に関する学習階層と検索戦略の構築 .....109
  - (1) 情報探索に関する学習階層 109
  - (2) 検索戦略の構築 113
2. 情報の加工・整理と発信 .....115
  - (1) 文献の主題と引用・要約作成 117
  - (2) 要約作成 117
  - (3) レポート・論文の構成要素と記載内容 118
  - (4) 参照文献の明示と記述法 120
3. まとめ .....122

## 第9章 レファレンスサービスによる学習支援 —————123

1. レファレンスサービスの概要 .....123
2. レファレンス質問の種類と主要な情報源 .....125
3. レファレンス協同データベースの活用 .....132
4. まとめ .....136

## 第10章 教職員のための学校図書館活用へのアプローチ —————138

1. 教育課程の展開に寄与する学校図書館活用 .....138
  - (1) 教育課程を踏まえた学校図書館活用 138



(2) 司書教諭と学校司書の連携	139
2. 児童生徒に「生きる力」を育むための学校図書館の構築	140
(1) 学校教育目標および児童生徒の実態に基づいた学校図書館経営全体計画	140
(2) 学校図書館チェックリストを用いた学校図書館経営と学校体制の推進	143
(3) 公共図書館や博物館等の関係機関との連携	147
3. 市川市学校図書館支援センターの実践	147
(1) 公共図書館との連携による学校図書館支援	148
(2) 市川市学校図書館支援センターの支援体制および研修内容	149
(3) 個人情報の取り扱いについて	150
4. まとめ	151

## 第11章 小学校における学校図書館の活用-1 —————152

1. 国語科における学校図書館活用	152
2. 理科における学校図書館の活用	156
3. 社会科における学校図書館の活用	159
4. 生活科における学校図書館の活用	162
5. 小中連携における学校図書館の活用	164
6. まとめ	165

## 第12章 小学校における学校図書館の活用-2 —————167

1. 総合的な学習の時間における学校図書館活用	167
2. 特別活動における学校図書館活用	169
(1) 実践事例「学級活動」(1)学級や学校の生活づくり	170
(2) 実践事例「学級活動」(2)日常生活や学習への適応及び健康安全	170
(3) 実践事例「児童会活動」	173
3. 幼小連携行事による学校図書館活用	173

4. 部活動への学校図書館支援 .....	175
5. まとめ .....	176

### 第13章 中学校・高等学校における学校図書館の活用-1 ———177

1. 学校図書館を活用した授業の目的 .....	178
2. 教科連携事例 .....	182
(1) 中学2年生国語      182	
(2) 高校3年生英語      186	
(3) 英語多読      188	
3. まとめ .....	189

### 第14章 中学校・高等学校における学校図書館の活用-2 ———192

1. レポート作成指導の事例 .....	192
(1) 「図書科」とは      193	
(2) 授業目的, 指導計画      194	
2. 「図書科」の授業内容 .....	196
3. 進捗メモとディスカッション .....	202
(1) 進捗メモ      202	
(2) ディスカッション      203	
4. まとめ .....	206

### 第15章 探究的な学習成果の評価と図書館の情報資源の活用 ———208

1. 探究的な学習の分析と評価 .....	208
(1) テーマ選択に関する特徴      210	
(2) 多様な調査方法と言語活動の充実      211	
(3) 探究的な学習をサポートする人的要素      212	
2. 図書館の情報資源の活用 .....	213
(1) データベース等の情報資源      213	
(2) 行政資料      215	

(3) 地域の情報資源	216
(4) 探究的な学習の成果物	216
3. まとめ .....	217
参考文献	219
さくいん	221

[執筆分担]

- 第1～9章：齋藤泰則
- 第10～12章：富永香羊子
- 第13, 14章：江竜珠緒
- 第15章：村木美紀

# 第 1 章

## 学習と図書館

本章では、司書教諭として身に付けておくべき基礎的かつ理論的知識として、学習における学校図書館の活用の意義と必要性について解説する。こうした理論に関する理解は、司書教諭として学校図書館を活用した学習指導を実践する基礎的知識となるばかりでなく、授業者である教師に対して学校図書館を活用した教育の意義と必要性について説明し、学校図書館を活用した教育を推進するうえで必要なものでもある。

そこで、まず、学習における図書館の情報資源の活用との関係について取り上げる。そもそも学習とはどのように定義される活動であり、事象なのかについて見ていく。とくに「わからない事柄について知識を獲得し、わかった」という学習活動が成立するには、どのような条件が満たされる必要があるのかについて解説する。そのうえで、学習活動において図書、とりわけ知の典拠として機能する辞書・事典などのレファレンス資料を中心とする図書館の情報資源からの知識獲得は、学習における基本的な活動であることを示す。

### 1. 図書館の社会的機能と学校教育

図書館が提供する図書や雑誌記事等の情報源は、児童生徒が新たな事象・事項について学び、知識を獲得するうえで重要な学習資源となるものである。図書や雑誌記事を中心とする情報源の内容は、基本的に特定の主題に関する専門家（expert）によって記述されたものである。たとえば、日本史に関する事典であれば、日本史に関する専門家が自らの専門領域に関連した執筆項目を担当

し、その専門知識をもとに担当項目に関して記述することになる。執筆にあたっては、当該項目に関する一次文献（研究成果に基づくオリジナルな情報を含む文献、詳細は第6章を参照）を出典や参考文献として付記するなど、記述内容の信頼性を確保することに留意している。図書館が提供する図書や雑誌記事を中心とする情報源が、児童生徒にとって重要な学習資源として活用されるべき理由は、上述のとおり、記述されている内容の信頼性が保証されているからである。

さて、現代社会は図書や雑誌記事というかたちをとって次々と新たな情報や知識が生産され流通する環境にあり、新たに生産された情報や知識を活用しながら種々の課題を解決することが求められるような「知識基盤社会」といえる。バトラー（Pierce Butler）は、こうした現代社会における学校教育と図書館の意義について、次のように述べている<sup>1</sup>。

その時代〔近代科学と産業主義勃興期以前〕には若者はいったん大学を出ると、成人としての生活に必要な知識は十分に所有していたのであり、一人前の人間であった。現代の社会では、その人間は同様の観点からいってまだ少年である。それは、その人自身あるいはその人が通った学校が不備であるためではない。社会そのものの知的情勢が大きく変化しているのである。教育の任務ははかり知れないほど拡大されている。蓄積された知識は学問的な学校教科の枠をはるかにこえている。両者が釣り合うといった時期があったのは昔の話である。今日、教育の視野は相当に広げられて、社会の各員が知的蓄積の共有財産にたよれるようなプロセスを全部抱え込まねばならないことになっている。この点で図書館は新しい意義を持っているのであり、学校について重要なものとなっている。（引用者により、訳文を補記するとともに、一部変更。）

このバトラーの指摘は、近代科学の登場以降、知識生産が拡大するなか、教

---

1：バトラー、ピアス、藤野幸雄訳『図書館学序説』日本図書館協会、1978、p.65-66.

育における図書館の重要性が高まることに注目したものである。いうまでもなく、教育における学校の重要性に変わりはないが、膨大な知識が生産される現代社会においては、学校のみで社会において必要となる知識のすべてを習得することは到底不可能である。次々と新しい知識が日々生産される現代社会においては、直面する新たな課題を解決するためには、学校教育で習得した知識だけでなく、学校教育後に生産された知識の活用が求められる。

新たに生産される知識は、出版という社会的な営為を経て、図書や雑誌記事などの「文献」という情報源のかたちをとって社会に登場し広く伝達される。そして、図書館という社会的機構によって図書や雑誌記事が収集・組織・蓄積されることにより、図書や雑誌記事に記録された知識は社会の共有財産となる。こうして、図書館を通して、課題解決等のために必要な知識がいつでも利用可能となるのである。

バトラーはこうした図書と図書館の機能について次のように指摘している。

図書とは人類の記憶を保存する一種の社会的メカニズムであり、図書館はこれを生きている個人の意識に還元するこれまた一種の装置といえる<sup>2</sup>。

図書は総体としては社会的記憶の中枢神経になぞらえる実質体である<sup>3</sup>。

このように、図書は人類が見出した知識を記憶した装置であり、社会における中枢神経として機能するものでもある。そして、そうした社会における中枢神経としての図書を多数、蓄積した図書館は社会における“脳”の働きをする存在といえる。

学校教育の段階で学ぶことができる知識は、社会において生産されている知識のごく一部に過ぎない。ゆえに、これから直面する種々の課題を解決するには、学校教育の段階で習得した知識に加えて学校教育後に生産される知識も必要となる。そこで、今日の学校教育には、児童生徒に課題解決に必要な知識

---

2：前掲書1，p.23.

3：前掲書1，p.75.

識や技能を獲得させるための学習だけでなく、新たに生産された知識を獲得する方法、すなわち学び方に関する学習（メタ学習）が要請されるのである。

## 2. 学習と図書館の情報資源

ここでは、あらため、学習とは何かについて見ていき、それをふまえて、学習における図書館の役割を示すことにする。

辞書・事典によれば、学習とは次のように説明されている。

学習とは、特定の経験によって行動のしかたに永続的な変化が生ずる過程である<sup>4</sup>。

1. 学問・技術などをまなびなうこと。2. 学校で系統的・計画的にまなぶこと。3. 人間も含めて動物が、生後に経験を通じて知識や環境に適応する態度・行動などを身につけていくこと<sup>5</sup>。

このように、学習とは「経験による行動の永続的な変化が生じる過程」であり、「経験を通じて知識や環境に適応する態度・行動の獲得」をいう。

この学習の定義における重要なキーワードは「経験」と「永続的な変化」であることがわかる。そこで、まず、「経験」とは何かについて見ていこう。

### （1）学習と経験

辞書・事典によれば、「経験」とは次のように説明されている。

生物体、とくに人間が感覚や内省を通じて得るもの、およびその獲得の過程をいう。体験とはほぼ同義だが、体験よりも間接的、公共的、理知的な含みをもつ<sup>6</sup>。

---

4：『世界大百科事典』平凡社、2007、p.123-124.

5：『大辞泉』小学館、1995、p.471.

6：『日本大百科全書 vol.8』小学館、1994-1997、p.25.

実際に見たり、聞いたり、行ったりすること。また、それによって得られた知識や技能など<sup>7</sup>。

このように、経験とは感覚や内省を通じて知識や技能を獲得する過程であり、あるいは獲得された知識や技能であることがわかる。

よって、「学習」とは知識や技能の獲得によって生じる永続的な行動の変化をもたらすもの、といえる。敷衍するならば、ある事象・事項についてわからないことを、わかったという状態にすることにより、その後の行動のしかたに永続的な変化をもたらすものといえる。ここで重要なことは次の2点である。第一に、ある事象・事項についてわかった、すなわち、その事象・事項について知っている、あるいは知識を得た、といえる条件は何か、ということである。第二に、学習とは行動に永続的な変化をもたらすものであって、短期的な変化をもたらすものは学習とはいえない、ということである。

まず、第一の点からみていこう。哲学の一領域である認識論によれば、人間がある事象・事項についてわかった、知っている、といえるようになるためには、次の三つの条件が必要となる<sup>8</sup>。

第一に、その事象・事項について得られた情報を信じていなければならない。

第二に、その信念が正しいものでなければならない。

第三に、その信念の根拠を示すことができなければならない。

以上の条件は、次のように敷衍することができる。すなわち、児童生徒が経験を通して獲得した信念が独りよがりなものでなく、正しい知識であることを示すような根拠を提示できたとき、あるいは、経験を通して獲得した信念から正しい知識を形成するうえで参考にした根拠が提示できたとき、児童生徒はそ

7：前掲書5，p.811.

8：ロー，スティーブン，中山元訳「第13章 知識について」『考える力をつける哲学問題集』筑摩書房，2013，p.258-260.



---

## [シリーズ監修者]

朝比奈大作 放送大学客員教授  
あさひ な だいさく 前横浜市立大学教授

---

## [編集者・執筆者]

齋藤泰則（さいとう・やすのり）

東京大学大学院教育学研究科博士課程単位  
取得退学  
現在 明治大学文学部教授  
主著 『利用者志向のレファレンスサービス』 勉  
誠出版, 2009; 『情報サービス演習』（編  
著）日本図書館協会, 2015

## [執筆者]

江竜珠緒（えりゅう・たまお）

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科  
博士前期課程修了, 博士後期課程在学中  
現在 明治大学付属明治高等学校中学校司書教諭  
主著 『鍛えよう！ 読むチカラ：学校図書館で  
育てる25の方法』（共著）明治書院,  
2012; 『学生のレポート・論文作成トレ  
ニング：スキルを学ぶ21のワーク』（共著）  
実教出版, 2013

村木美紀（むらき・みき）

大阪市立大学創造都市研究科創造都市専攻  
都市情報環境研究領域博士課程単位取得退  
学  
現在 同志社女子大学学芸学部情報メディア学科  
准教授  
主著 『学校図書館メディアプログラムのための  
ガイドライン』（共訳）全国学校図書館協  
議会, 2010; 『学校経営と学校図書館, そ  
の展望 改訂版』（共著）青弓社, 2009;  
『学校図書館メディアの構成とその組織  
化 改訂版』（共著）青弓社, 2009

富永香羊子（とみなが・かよこ）

現在 千葉県市川市教育委員会学校教育部教育セ  
ンター 指導主事  
市川市学校図書館支援センター事務局  
主著 『司書教諭・学校司書のための学校図書館  
必携 理論と実践』（共著）悠光堂,  
2015; 『困ったときには図書館へ2 学校  
図書館の挑戦と可能性』（共著）悠光堂,  
2015; 『みんな新聞記者・学校新聞入門 4  
おもしろ壁新聞入門』（共著）ポプラ社,  
1993

司書教諭テキストシリーズⅡ…3

## 学習指導と学校図書館

2016年2月24日 初版第1刷発行

著者 © 齋藤泰則  
江竜珠緒  
富永香羊子  
村木美紀  
〈検印省略〉

発行者 大塚栄一

発行所 株式会社 樹村房  
JUSONBO

〒112-0002

東京都文京区小石川5-11-7

電話 03-3868-7321

FAX 03-6801-5202

振替 00190-3-93169

<http://www.jusonbo.co.jp/>

印刷 亜細亜印刷株式会社

製本 有限会社愛千製本所

ISBN978-4-88367-253-0 乱丁・落丁本は小社にてお取り替えいたします。

朝比奈大作 監修

司書教諭テキストシリーズⅡ

[全5巻]

各巻 A5判 本体2,000円(税別)

▶本シリーズは、刊行後十余年を経過した「司書教諭テキストシリーズ」(全5巻)の改訂版にあたる。最新の図書館情報学の知見を教育学的視点から解説し理論と実践の融合を図るという方針を踏襲しながら、学校図書館を取り巻く急激な状況の変化に対応。全巻を通じ、修得した知識・技術を教育現場の中でいかに活用していくかという視点を強く意識しつつ編集を行った。

- |                |          |
|----------------|----------|
| ① 学校経営と学校図書館   | 編集 中村百合子 |
| ② 学校図書館メディアの構成 | 編集 小田 光宏 |
| ③ 学習指導と学校図書館   | 編集 齋藤 泰則 |
| ④ 読書と豊かな人間性    | 編集 杉本 卓  |
| ⑤ 情報メディアの活用    | 編集 村山 功  |

樹村房